



保育士の母から 受け継いだ、 笑顔をも大切にする保育

**現場の実感……
想像を超えた大変さ、
その先にあるやりがい**

実際に保育士として働いてみると、子どもと関わる楽しさだけでなく、想像以上に体力を使うこと、書類・記録などの事務作業の多さに驚いたNさん。それでも、子どもたちの笑顔や成長に触れる時間が、日々の頑張る力になっています。大変なこともありますが、子どもたちと関わることで癒され、また頑張ろうと思えます」と笑顔で話します。

わからないことはばかりで先輩に相談し、「一つ一つ教えてもらいながら、すべてが勉強」と前向きに取り組ましました。複数担任に悩むこともありましたが、周りの先生方に支えてもらいながら2年目、3年目と経験を重ねる中で、さまざまな先生と保育をする中で新しい考え方や方法を知り、自分のやりたい保育も少しずつ見えてきたと言います。

「苦しい時期を支えてくれたのは、職場の先生方とのつながりでした。これからは学び続ける姿勢を大切にして、困った時には素直に仲間を頼れる保育士でありたいです」

一人で抱えずに、仲間を支えてもらいながら学び続ける。その積み重ねが、保育士としての成長につながっています。

現在の園で4年目を迎え、「ほかの園を見てみたい」と思うこともありますが、「今の園でこれからも働き続けたい」と話します。地域や園によって環境は異なりますが、日々の出会いや経験を積み重ねながら、自分らしい保育を見つけていくことも、保育士として働く魅力の一つなのかもしれません。

笑顔から始まる、Nさんの保育

「ほしかったんだね」「渡したくなかったんだね」。子ども同士トラブルも、Nさんはまず、その子の気持ちを受け止めることから始めます。思いを言葉にして寄り添ったうえで、「なぜ」「なに」と一緒に考え、伝えていく。そんな丁寧な関わりを大切にしています。

そしてNさんが自分自身に課している「マイルール」は、いつも笑顔でいること。「子どもにも保護者にも職員にも、まず笑顔で挨拶するようにしています。笑顔を見ると気持ちが明るくなるから、自分から発信したいんです」

相手の気持ちを受け止める優しく、自分から笑顔を届ける前向きさ。その二つがNさんの保育を支えています。今日も笑顔で子どもたちと向き合いながら、一人一人の心の気持ちに寄り添います。



休日は大好きなディズニーランドに友だちと遊びに行きます

【編集後記】

笑顔から生まれる、安心と信頼——Nさんのお話から伝わってきたのは、子ども一人一人の気持ちを丁寧に受け止める、目の前の子どもと誠実に向き合う姿勢でした。わからないことや悩みに出会った時には先輩や仲間を頼りながら学び続ける。その素直さと前向きさこそ、Nさんの大きな魅力です。

「まず笑顔で挨拶をする」といふシンプルなマイルールには、子どもだけでなく、保護者や職員とのつながりを大切にする思いが込められています。子どもの気持ちを受け止める、自分から笑顔を届ける。そんな日々の積み重ねが、子どもたちにとっての安心となり、周りの人の心を明るくしています。

等身大の言葉の一つ一つから、保育という仕事の楽しさや奥深さ、そして「人と関わること」の温かさが伝わってきました。これからもNさんらしい笑顔で、子どもたちとともに歩んでいく姿を応援しています。

（青年会議広報部）



輝く笑顔！全国ほいくの人

vol.02 秋田県 保育士Nさんインタビュー

保育士 Nさん
都道府県 秋田県
経験年数 4年目

子どもたちの笑顔の裏側にある、日々の小さな積み重ねや丁寧な関わり。そんな「現場のリアルな輝き」を届ける連載第2回は、秋田県で働く保育士4年目のNさんです。母が保育士で、幼い頃から子どもと関わることを楽しんできた彼女は、現場での学びを重ねながら、笑顔をも大切にする保育をしています。仕事の実感、苦勞と喜び、そしてこれからの目標まで、等身大の言葉で語っていただきました。

忘れられない瞬間
成長を見届ける喜び

「保育士になってよかった」と強く感じた出来事

Nさんが1年目に担当した0歳の子とまたこの再会。入園当初はまだ小さく、泣いている時間も多かった子どもたちが3歳になり、発表会の舞台上で楽しそうに踊る姿を見た時、Nさんの胸には大きな感動が広がりました。「成長って本当にすごいな」と心から感じたその瞬間は、子どもたちと一緒に歩んできた時間の尊さを改めて実感する出来事となりました。

現在は1歳児を担当し、子どもたちの毎日の小さな変化を大切に見守っています。少しずつ言葉が増え、思いを伝えられるようになる中で、子どもたちとのやり取りの楽しさや日に日に深まっています。最近では、子どもたちが「N先生」と呼んでくれるようになりました。そして、保護者の方から「家でも先生の名前を話しています」と聞いた時には、園での関わりが家庭にもつながっているのだと、大きな喜びを感じたそうです。

子どもの成長は、毎日の小さな一歩の積み重ねです。昨日までできなかったことができるようになる瞬間、新しい言葉が生まれる瞬間、そして信頼関係が少しずつ育まれていく瞬間。その一つ一つに寄り添えるからこそ、保育士という仕事の大きな魅力です。子どもたちの成長を、一番近くで見守り、その喜びをともに分かち合っていく。それがNさんにとって、保育を続ける大きな原動力になっています。

苦勞を乗り越え、
仲間とともに成長

保育士1年目に0歳児の担任を務めた時、保護者との関わりも多く、質問を受けるたびに戸惑うこともありました。